



2023年2月8日発行

第 120号

事務局 〒161-0033 東京都新宿区下落合
1-3-16ジョリーメゾンヌベル下落合205号
TEL/FAX 03-6457-3921
E-mail n.s.e.g@d7.dion.ne.jp
<http://www.seishineisei.gr.jp/>

〈目 次〉

日本精神衛生学会第38回大会を終えて……………	1
日本精神衛生学会第39回大会のお知らせ……………	2
日本精神衛生学会第38回大会参加記……………	2
日本精神衛生学会第38回大会 学会参加記……………	3
2022年度第2回理事会議事録概要……………	4

日本精神衛生学会第 38 回大会を終えて

日本精神衛生学会第 38 回大会 大会長
船越 明子(神戸市看護大学)

コロナ禍でのハイブリッド開催は、非常にチャレンジではありましたが、結果的に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による第7波と第8波の合間となった2022年10月29、30日の2日間に現地開催を行うことができ、全国から100名以上が会場にて参加して下さいました。さらに、市民公開講座には、約90名の市民が参加しました。10題の一般演題の中から、「コロナ禍における保育者の職業性ストレスと精神健康・離職以降の背景要因の検討」(齋藤友子さん・大分大学教育学部)に大会賞が授与されました。

現地開催後の様子を録画編集し、11月末まで約一か月間オンデマンド配信を行いました。現地開催後も参加申込を頂くことができ、最終的に245名の参加となりました。私が大学院時代から探求してきた「ひきこもり」「社会的孤立」と心の健康について、様々な立場から様々な角度で実践的かつ学術的な交流ができただろうと考えています。

参加者の皆さまから頂いたアンケートからは、「久しぶりの対面での学会は楽しかった。」「キャンパスが綺麗だった。」という嬉しいコメントが多く寄せられました。私も、久しぶりにお会いできた方が沢山いらして、楽しいひと時となりました。

こうした大会運営を通して、実行委員やボランティアを中心に多くの方々のご協力を頂きました。ここに厚くお礼申し上げます。

日本精神衛生学会第 39 回大会のお知らせ

テ — マ: 家族と個人—家族が個人に求めるものと 個人が家族に求めるものと—
会 期: 2023 年 12 月 2 日(土)～3 日(日)
会 場: Web 開催(予定)
大 会 長: 上別府圭子(国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻看護学分野)
事務局長: 高下 梓(松本看護大学)

日本精神衛生学会第 38 回大会参加記

埼玉石心会病院 心理相談室 鈴木康弘

フィレンツェをイメージした校舎は赤屋根が美しく、最初に目についたのは正門から見えるお洒落な時計台…ここは神戸市看護大学。校舎の美しさに加えてハーブ庭園を有し、構内の広さを感じながらも、歩いていて心地良いその環境に、「こんなキャンパスで勉強できるなんて羨ましい！」と思いました。大会会場に足を運ばれた学会員の先生方も現地開催の魅力を再認識されたのではないかと思います。

私自身の大会参加は、コロナ禍直前の 2019 年 12 月 7 日・8 日に開催された第 35 回別府大会以来となりました。この度の大会 2 日目には学会員として総会に参加し、議長という大役を拝命し、その後の帰路で偶然お会いした第 35 回大会長の西村靖史先生と途中まで一緒するという、現地開催ならではの出会いと魅力を十二分に感じる大会となりました。これもひとえに、現地とオンデマンドのハイブリッドで開催して頂いた第 38 回大会長の船越明子先生、大会運営に関わられた実行委員の皆様のおかげであり、素晴らしい大会を開催して頂きまして、心より感謝申し上げます。

大会長講演では、船越先生より「社会的孤立」にある様々な対象者の支援についての貴重な講演を拝聴しました。私自身は平素より総合病院の外来診療の中で、小学生から成人一般、高齢者まで幅広く心理的支援をしており、船越先生のデータに基づいたひきこもりの実態、家族以外との交流がない主婦層の存在、「オンライン居場所」が有意義であること等のご講演は日常の臨床実践に結びつく内容ばかりで、様々な患者さんのエピソードが想起されました。不登校が続く小学生の子ども達、コロナ禍で思うような就労に就けずに苦悩する若年女性等、孤立する可能性のある予備軍の患者さんも多く存在することに気づきました。そのような患者さん達が心理的に孤立しないように、物理的にも居場所を感じられるように、どのように関わっていったら良いか、様々な知見を学ばせて頂きました。

市民公開講座では「マルトリートメント」の概念を提唱し国内の第一線を牽引する、福井大学子どものこころ発達研究センター教授の友田明美先生のご講演でした。私なりに理解したことの一つとして、子ども達や親御さんの心理的な支援は多少“お節介”でも良いので褒めて関わり続けることではないかということでした。教育講演では「コロナ禍&ポストコロナの職場のメンタルヘルス」というテーマで、やはり国内第一線におられる東京大学大学院医学系研究科デジタルメンタルヘルス講座特任教授の川上憲人先生のご講演では、職場で感染対策が取れている対策の数が多いほど心理的ストレスが少ないといった研究報告など興味深いお話を拝聴しました。コロナ禍でのオンライン面接での工夫として、相手の人をひとかたまりの人格として捉えるという川上先生の視点には、前述の友田先生が子どもや親御さんを診る視点にも共通した人を支援する側にある温かさのようなものを感じました。

一般演題のポスター発表のセッション会場にも多くの参加者が集まり、大変活発な意見交換がなされていました。私自身も今年に入りコロナ禍での実践報告である『急性期総合病院における緊急入院患者の早期精神科リエゾン活動』について発表させて頂きました。入院担当医からの依頼を待たずして、緊急入院3日以内の患者のメンタル支援のために病床訪室するというかなりアクティブな臨床実践の試みですが、今年8月のCOVID-19第7波以降は、患者さんを救出するためのこれらの臨床活動を再び中止せざるを得ませんでした。入院という環境は一時的ではあっても一つの居場所ではありますが、現在は家族面会ができない入院環境が続いています。患者さんの中には元々心理的に孤立を抱える入院患者がおられ、医療現場ではそのような患者さんに多方面からアプローチしていきますが、今回の大会テーマは治療を受ける様々な患者さんにも関連性が高いテーマではないかと考えました。

この度の学びを胸に、多忙な臨床実践に戻りつつ、上別府圭子先生が大会長をされる第39回大会にてまた諸先生方とお会いできますことを心より楽しみにしております。



日本精神衛生学会第38回大会 学会参加記

神戸市看護大学看護学部4年

上村真夢、黒川志帆、曾根彩夏、三村優花、矢野瑞稀

2022年10月29、30日に行われました日本精神衛生学会第38回大会に、学生5名は参加させていただき、一人一人が大変多くの学びを得ることができました。このような貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。学生5名の感想を順番に記載しました。

- 大会ワークショップ「自殺対策ゲストキーパー研修のつくりかた」にて、医療者以外にも学校教員の方、地域支援に携わっておられる方など多岐にわたる職種の方々とグループワークをさせていただきました。そのようなワークを通して、「精神」への援助は病院内のみでなく地域においてもニーズが高いことを知ると同時に、広い視野をもって、精神看護に取り組むことが重要であると学びました。(曾根)
- 2 日目に行われた「地域で人とつながって生きる」をテーマにしたシンポジウムにおいて、地域で様々な活動をされている方々のお話や討論を聞かせていただきました。まず、シンポジウムを聞いたのは初めてだったため、すごく新鮮でした。そして、精神保健活動について大学で学ぶことはやはり医療中心であるため、異なった立場の方々の考え方や活動を知ることができ、私自身の視野も広がったように思います。(上村)
- 今回は学会に初めて参加させていただき、看護以外の職種の精神保健活動に携わる方々とも交流して新しい学びや面白いお話を聞くことができました。ポスター会場でも興味深い内容の発表ばかりで、精神保健活動の対象となる人は様々で、研究方法や支援内容も多岐に渡ることを改めて感じました。新しい知識に対してエネルギッシュな方ばかりだったことが印象的で、私も新しいことを学び続ける姿勢を忘れずに看護師として働いていきたいと感じました。(三村)
- ポスター発表の質疑応答だけでなく市民講座講演後も参加された方と話を聞かせて頂き、精神保健に携わる方々の教育や子育て支援にまつわる熱い思いを学ぶことができました。実際に、臨床現場や行政機関で働く方から虐待における必要な支援についてリアルな意見を頂いたり、学会に参加して新しい知見を得続けようとする姿を見聞きしたりすることで、その素晴らしさを肌で感じる事が出来ました。(黒川)
- 1 日目に行われた自主企画「ひきこもり支援から見えてくるもの～人を無力にするものは何か～」では、引きこもりの方々の居場所づくり活動を実際に行っている方からお話を伺うことができました。そこで、引きこもりの程度や原因は様々であるが、長期的な関りを通して、その人を包括的に理解して個別的な支援をして行くことが大切だと学ぶことができました。また引きこもりの方を含め社会的に孤立している方々の社会への復帰は、提供された居場所だけで生きていけるのではなく、地域で自分の居場所を作っていくことが目標になります。そこで、地域の協力も必要となってくることから、医療従事者の地域との連携の重要性についても学ぶことができました。(矢野)

2022 年度第2回理事会議事録概要

日 時 : 2022 年 10 月 29 日(土)12:05-12:50

会 場 : 神戸市看護大学 本部研究棟 4 階 大会議室

出 席 : (敬称略、順不同) 影山隆之 上別府圭子 福島眞澄 酒井佳永 中野良吾 高塚雄介

吉岡伸一 船越明子 阿部裕 荻田純久 齋藤和樹 高下梓 中野明德 加藤純 菅野恵 鉦鹿健吉
西村靖史 早川東作 倉島徹 馬淵麻由子 以上 20 名(事務局員:原)

欠 席 : 25 名 (委任状:19 通)

《審議事項》

1. 2022 年度 土居健郎記念賞について

選考委員長の上別府理事より選考結果について報告。下記の土居記念賞受賞者が承認された。

A賞 研究奨励賞:上野里絵 氏(東都大学幕張ヒューマンケア学部看護学科精神看護学領域)

『精神疾患を有する親とその子どもおよび家族への支援』

B賞 活動奨励賞: 該当なし

《報告事項》

1. 総会提出議案について

- ・影山理事長および馬淵事務局長より、1)2021 年度事業報告、2)2021 年度会計報告、3)2022 年度事業計画、4)2022 年度予算案について説明を行った。特に意見はなく、承認された。
- ・影山理事長から学会口座にある余剰金について説明を行った。現在、メンタルヘルスビューローと協力して確認作業中である。

2. 第 39 回大会について

- ・第 39 回大会は、上別府圭子理事を大会長、高下梓理事を事務局長として、2023 年 12 月 2 日(土)～3 日(日)、全面 WEB 形式で開催されることとなった。大会テーマは「家族と個人 ―家族が個人に求めるものと個人が家族に求めるもの―」で予定されている。
